

| | | | |
|------------|-------|------------------|--------------|
| 教科 科目名 | 地理歴史科 | 単位数(週あたりの授業時数) | 2 単位 |
| | 地理総合 | 履修学年(類型) | 1 学年 普通科・MS科 |
| 教科書名(出版社名) | | 地理総合(東京書籍、地総701) | |

●学習到達目標

地理の諸事象に関して理解するとともに、諸事象相互の関連を資料を用いて多面的に考察したり、説明したりする力を身につけ、よりよい社会の実現に向けて主体的に追究、解決しようとする態度を育成する。

●学習計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 |
|----|------|-------------------------|---|
| 1 | 4・5月 | 地図やGISでとらえる現代世界 | 地図や地形図、地理情報システムの活用について学ぶとともに、それらを利用して世界の国々のつながりについて考察する。 |
| | 6月 | 国際理解と国際協力 | 地域・世界の文化(宗教、言語、生活文化)の多様性について学び、その歴史的背景や地域性を考察する。 |
| | 7月 | 生活文化と自然環境(地形) | 様々な要因で形成される地形の特徴について学び、そこに暮らす人々の文化や生活の工夫について理解する。 |
| 2 | 9月 | 生活文化と自然環境(気候) | 様々な要因で形成される気候の特徴について学び、そこに暮らす人々の文化や生活の工夫について理解する。 |
| | 10月 | 生活文化と産業 | 世界の産業の形成を多面的に理解し、国や地域ごとの違いとその要因を考察する。 |
| | 11月 | 様々な地球的課題と国際協力 | 地球環境問題、資源・エネルギー問題、食料問題、人口問題、居住・都市問題、民族問題などの様々な地球的課題の要因や特徴について理解し、持続可能な社会作りに向けた課題や取り組みを考察する。 |
| | 12月 | | |
| 3 | 1月 | 持続可能な地域づくりと私たち(自然環境と防災) | 我々の住む日本の地形・気候の特性と自然災害との関係性、近年行われている防災や減災に関する取り組みについて理解する。また、身近な地域で発生する危険性のある災害について考え、私たちにできる防災に向けた取り組みについて考察する。 |
| | 2月 | | |
| | 3月 | 生活圏の調査と地域の展望 | 身近な地域で生じる課題を見いだして調査計画を立案することで、持続可能な地域社会のあり方と社会参画の意義について理解する。 |

●観点別評価

| 3観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|---|--|--|
| A | 諸事象に関して理解し、資料から様々な情報を調べ、まとめる技能を身につけている。 | 諸事象相互の関連を概念などを活用して多面的に考察したり、それらを効果的に説明したりできる。 | 知識等の習得に向けて粘り強い取り組みを行おうとしたり、自らの学習を調整しようとしている。 |
| B | 諸事象をおおむね理解し、手助けを受けながら、情報を調べ、まとめることができる。 | 諸事象相互の関連を多面的に考察したり、それらを順序立てて説明したりすることがおおむねできる。 | 知識等の習得に向けて取り組み、自らの学習を調整しようとする姿がおおむね見られる。 |
| C | 諸事象への理解が乏しく、資料から情報を調べ、まとめる技能が身につけていない。 | 諸事象相互の関連を多面的に考察できず、それらを効果的に説明することが難しい。 | 知識等の習得に向けた取り組みや、自らの学習を調整しようとする姿が見られない。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考・判断・表現を評価する。 ○ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とする。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、授業プリントの記述などの内容を評価のための資料とする。 ○ 単元ごとに行う自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とする。 | | |
| 評価の重み | $\alpha=0.4$ | $\beta=0.4$ | $\gamma=0.2$ |